

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2018年8月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2018年8月9日～31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 107社
- 回収率 53.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の8月の状況を見ると業況DIは、前月とほぼ横ばいの▲19.4となった。

2017年9月以来12ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲15.7、当月に比べ3.7ポイントの改善を見込んでいる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2018年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2018年9月～ 11月
業況	▲15.2	▲24.1	▲21.9	▲23.9	▲19.3	▲19.4	▲15.7
売上	4.7	▲18.7	▲14.9	▲18.2	▲7.9	▲12.8	▲7.4
採算	▲12.4	▲22.4	▲21.9	▲21.8	▲17.5	▲21.1	▲14.8
仕入単価	▲41.9	▲33.0	▲39.4	▲36.4	▲39.8	▲42.6	▲33.4
従業員	29.5	32.1	31.9	32.7	25.4	32.4	31.5
資金繰り	▲11.4	▲8.0	▲6.2	▲4.5	▲4.4	▲6.5	▲5.6

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2018年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2018年9月～ 11月
建設	▲11.1	▲19.3	▲16.0	▲18.5	▲25.9	▲30.8	▲25.1
製造	▲16.0	▲29.2	▲27.6	▲37.5	▲28.0	▲30.8	▲15.4
卸売	▲22.7	▲23.8	▲28.6	▲30.0	▲8.3	0.0	▲10.5
小売	▲13.3	▲23.5	▲29.4	▲33.3	▲25.0	▲11.7	▲17.6
サービス	▲12.5	▲25.0	▲9.1	0.0	▲9.1	▲15.0	▲10.0

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・工事受注量の減少。一時的な従業員の不足。資機材の価格上昇により設計単価との乖離が大きい。慢性的な下請業者不足による施工単価の上昇。（総合工事） ・職員の増員：人が少ない。仕事の平準化：山・谷が大きい。（設備その他） ・技術職員の不足。生産性の向上(設備その他) ・請負工事確保のため、地方工事が増加しており、伴って経費も増加している。市内での競合が激化しており、消費税の引き上げによる駆け込み需要に期待しているが、労働力確保にも不安が出てきている。（建築）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上はUP（前年対比）しているが仕入価格が上げ止まりで売上看えだけの利益が出てこない。作業効率の中、一層の改善に取り組んでいるが意識改革に苦慮（食料品） ・短納期の仕事がこのごろ多くなり、一時的に忙しさが感じられ余裕が無い。（印刷・出版） ・印刷需要の減少（印刷・出版） ・為替次第の面あり（家具木材） ・資材の入荷難がまだらに出てきている。製造調整によるもの。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度よりも若干、良い業況といえる。（機械鋼材） ・8月に入り灯油仕入価格に大きな変動がなく、販売価格も現状のまま、当面続くものと予想されます。（その他） ・仕入チャンネルの変化、販売チャンネルの変化への対応。手数料収入であるため、ノンリスクが前提条件(その他)
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年お盆休みで帰省する顧客の来店で売上をかなり見込む事が出来る8月だが、カレンダーの関係なのか帰省客が少なく売上が前年より低くなかなか厳しい状況。（衣服見回品） ・来月直営店舗の改装を行なうが、職人がいないのかどの分野も平均高い。個人消費・観光客の動向としては、お盆明けから観光客、帰省客の動向が良い。お盆期間中は雨天が多かったせいか室内の施設の集客が良かったようです。（衣服見回品） ・仕入価格の動向（食料品） ・石油製品の仕入価格が高止まり状態であり、今後イランに対する経済制裁の影響で更なる値上がりが懸念される。（その他） ・従業員不足が解消されない（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・売上は前年度8%増。海外を含む観光客増。各部門によっては、深夜までやっている。学生アルバイトを中心に夏休み中の人員を確保してきた。今年の忙しさは異常な忙しさが続いている。（理美容クリーニング） ・8月は前年並、9～10月は好調の見込。人材（特に料飲）は不足。新規ホテルが増え、8月後半からは価格競争となる見込である。（ホテル・旅館） ・仕入価格の高騰、人件費上昇、人材不足（ホテル・旅館） ・価格競争が激しくなっており、仕事量はあるが思うように売上が伸びない状況が続いている。（その他） ・野菜の値上げがきびしい（飲食） ・夏の天候不順により対前年比15%も売上減。従業員最低賃金835円はもう限界(飲食) ・軽油価格の上昇（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 D7.4 ポイント改善、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI5.3 ポイント悪化、資金 DI3.7 ポイント改善、従業員 DI9.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 4.9 ポイント悪化となった。業種別では、設備・その他横ばい、総合工事 8 ポイント、建築 25 ポイント悪化となった。請負工事確保のため地方工事が増加しており、伴って経費も増加している。市内での競合が激化しており、消費税の引き上げによる駆け込み需要に期待しているが、労働力確保にも不安が出てきているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI3.8 ポイント悪化、採算 DI14.8 ポイント悪化、仕入単価 DI2.9 ポイント悪化、資金 DI23.1 ポイント悪化、従業員 DI3.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 2.8 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 13 ポイント改善、家具・木材横ばい、印刷・出版 7 ポイント、金属窯業他 12 ポイント悪化となった。売上は UP(前年対比)しているが仕入価格が上げ止まりで売上看えだけの利益が出てこない作業効率の中、一層の改善に取り組んでいるが意識改革に苦慮との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI4.4 ポイント改善、採算 DI3.0 ポイント改善、仕入単価 DI3.5 ポイント悪化、資金 DI3.0 ポイント改善、従業員 DI6.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 8.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。業種別では、その他 14 ポイント悪化、繊維・衣服等横ばい、食料品 20 ポイント、機械鋼材 20 ポイント改善となった。8 月に入り灯油仕入れ価格に大きな変動がなく、販売価格も現状のまま当面続くものと考えますとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI1.5 ポイント改善、採算 DI7.7 ポイント改善、仕入単価 DI23.5 ポイント悪化、資金 DI6.3 ポイント改善、従業員 DI は 2.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 13.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。業種別では、食料品、自動車横ばい、衣料品 8 ポイント、その他 50 ポイント改善となった。毎年お盆休みで帰省する顧客の来店で売上をかなり見込む事が出来る 8 月だが、カレンダーの関係なのか帰省客が少なく売上が前年よりも低くなかなか厳しい状況との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI29.1 ポイント悪化、採算 DI5.9 ポイント悪化、仕入単価 DI19.5 ポイント改善、資金 DI4.6 ポイント改善、従業員 DI10.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 5.9 ポイント悪化となった。業種別では、運送 67 ポイント改善、ホテル・旅館横ばい、理美容・クリーニング 100 ポイント、その他 f20 ポイント、飲食 33 ポイント、整備業 17 ポイント悪化となった。夏の天候不順により対前年比 15%も売上減、従業員最低賃金 835 円はもう限界との声も寄せられている。</p>